

# 外来種 チュウゴクアミガサハゴロモ

## 分布拡大・注意！

●2015年に国内で初確認された外来種チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* が、2024年には本州(群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、富山、静岡、愛知、奈良、京都、大阪、兵庫、和歌山、岡山、広島)、四国(徳島、高知)、九州(熊本)で確認され、分布の拡大が懸念されています。●本種は街路樹や果樹を含む非常に多くの樹種を宿主とし、韓国では深刻な農業被害を出しています。園内に侵入していないか、一度樹木をご確認下さい。

\* 在来種アミガサハゴロモは、本州、四国、九州の常緑広葉樹林に生息する半翅目ハゴロモ科の昆虫で、幼虫・成虫共に主にカシ類の葉や茎から吸汁して生活しています。



(下中)ブルーベリーで確認された産卵痕。

(下右)イロハモミジで確認された産卵痕。

### これまでに報告のある被害樹種の科

マキ、モクレン、クスノキ、メギ、ツゲ、アケビ、キンポウゲ、フウ、マンサク、カツラ、ブドウ、マメ、バラ、グミ、ニレ、アサ、クワ、ブナ、ヤマモモ、カバノキ、ニシキギ、ヤナギ、トウダイグサ、ミソハギ、フトモモ、ウルシ、ムクロジ、ミカン、ニガキ、アオイ、タデ、アジサイ、ミズキ、サカキ、カキノキ、ツバキ、エゴノキ、ツツジ、アカネ、モクセイ、シソ、モチノキ、キク、スイカズラ、トベラ、ウコギ

●街路樹や植木、リンゴ、カキノキ、柑橘類、ブルーベリー、ブドウ、フェイジョアなどの果樹も含まれます。

Choi et al.(2012)によると、韓国南西部では本種の卵期は8～6月、幼生期は5～8月、成虫期は7～11月で、成虫は寄主植物の枝先に産卵します。これにより樹木の生育に影響が出るほか、成虫の排泄物によってすす病の発生リスクが高まります。

現在のところ、日本国内では大きな農業被害は報告がありませんが、韓国では深刻な農業被害が報告されているほか、欧州にも本種の侵入は確認されており、欧州食品安全機関では、本種を植物害虫として位置付け、注意喚起をしています。

園内外でチュウゴクアミガサハゴロモを確認されましたら、下記宛ご一報いただくと幸いです。

(公社)日本植物園協会 外来種対策分科会 中田政司(富山県中央植物園) E-mail nakata@bgtym.org

©富山県中央植物園・早瀬裕也 2024